

2023年3月1日

MURC Focus

英国とEUが「ウィンザー枠組み」で合意

～期待される英国とEUの関係改善

調査部 副主任研究員 土田 陽介

- 英国のスナク首相とEUのフォンデアライエン欧州委員長は2月27日、英国のEU離脱協定に含まれる「北アイルランド議定書」の問題点の解決に向けた「ウィンザー枠組み」で合意に達した。
- 今回の合意で、英国は「北アイルランド議定書の一部を破棄する法案」を取り下げることになる。他方でEUも、英国に対して科してきた法的措置を取り下げることになる。
- 極短期でトラス前首相が退陣し、スナク現首相が就任したことで、英国とEUの関係改善に向けた動きが進展した。今回の合意を機に、両者の関係が一段と改善する展開となることが期待される。

(1) 北アイルランド国境問題が前進

英国のリシ・スナク首相と欧州連合（EU）のウルズラ・フォンデアライエン欧州委員長は2月27日、ロンドン郊外にあるウィンザー城で会談し、英国のEU離脱協定に含まれる「北アイルランド議定書」の問題点の解決に向けた「ウィンザー枠組み」で合意に達した。これを受けて、英国本土と北アイルランド間の通商の円滑化が進むと期待される。

そもそも「北アイルランド議定書」では、英国のEU離脱後も北アイルランドがEUの単一市場にとどまることになっていた。しかし北アイルランドのユニオニスト（親英派）に配慮するボリス・ジョンソン元首相らがその見直しを主張し、2022年5月17日には「北アイルランド議定書」を一方向的に覆す法律を導入する計画を発表した（図表1）。

図表1. これまでの経緯

英 EU 離脱を巡る主な出来事

年/月	内容
2016年6月	英国、EU 離脱の是非を問う国民投票を実施
2017年3月	英国、EU 離脱の意思を通知
2019年7月	英国、ジョンソン政権誕生
10月	「離脱協定」合意
2020年1月	英国、EU 離脱。移行期間スタート
12月	移行期間終了
2022年5月	ジョンソン政権、「北アイルランド議定書の一部を破棄する法律」を導入する計画を発表
6月	ジョンソン政権、「北アイルランド議定書の一部を破棄する法案」を発表
9月	英国、トラス政権誕生
10月	英国、スナク政権誕生

(出所)各種資料

図表2. 「ウィンザー枠組み」のポイント

英本土から北アイルランドに向かう物品に関する取り決め

モノの扱い	主な内容
グリーンレーン	北アイルランドで消費される物品に関して、書類提出、規制検査、関税などが原則として不要に
レッドレーン	北アイルランドを経由してEU加盟国であるアイルランドに向かう物品に関して、書類や検査など通常の手続きが必要

(出所)欧州委員会及び英国政府

ジョンソン元首相の電撃的な辞任を受けて就任したリズ・トラス前首相は対 EU 強硬派として知られており、その就任によって「北アイルランド議定書の一部を破棄する法案」が成立し、EU との関係が冷え込む恐れが懸念されていた。そのトラス政権が極短命に終わり、2022年10月に誕生したスナク現政権の下で、事態の好転が期待されていた。

今回の「ウィンザー枠組み」の合意で、英国は「北アイルランド議定書の一部を破棄する法案」を取り下げることになる。他方で EU も、英国に対して科してきた法的措置（欧州司法裁判所への提訴）を取り下げることになる。また北アイルランドと英本土間で現在行われている通関検査に関して、検査の緩和が進む予定である（図表2）。

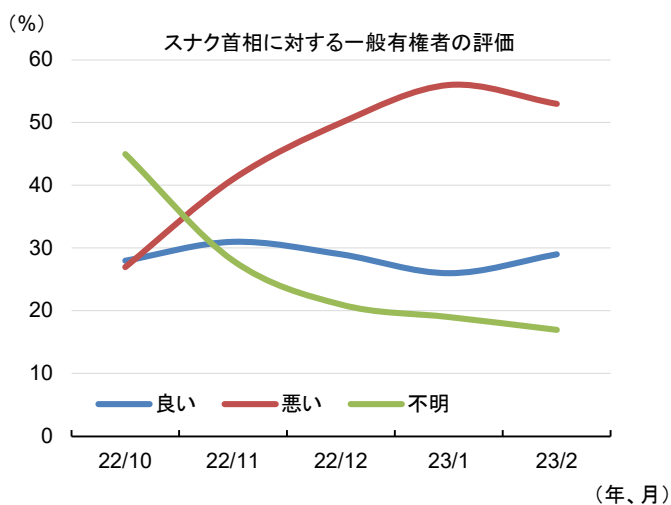
(2) 保守党内の対 EU 強硬派は静観か

財政再建路線を掲げるスナク首相に対する有権者の評価は、就任以降、厳しい状況が続いている（図表3）。今回の「ウィンザー枠組み」の履行によって、英本土と北アイルランド間の通商環境が改善する。このことが、低迷するスナク首相の支持率回復につながる可能性がある。EU との関係改善を期待する英国の民意に応えることになるためである。

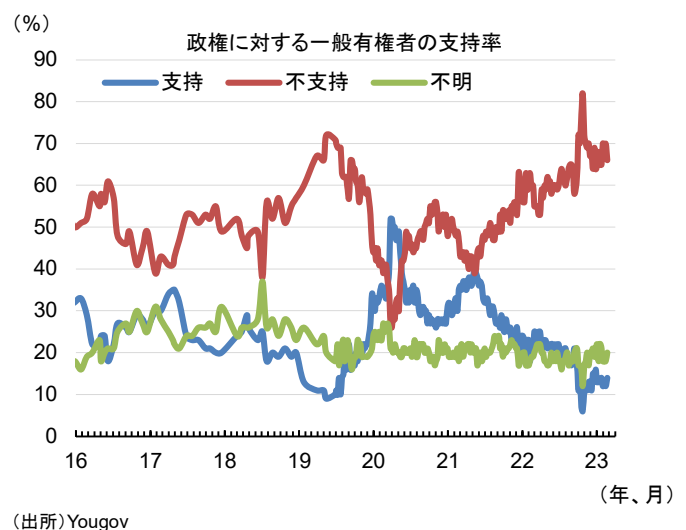
北アイルランドのユニオニスト政党であり、与党である保守党と事実上の協力関係にある民主統一党（DUP）も、今回の「ウィンザー枠組み」に対して一定の評価を与えているため、この合意を受け入れると予想される。問題は保守党内の対 EU 強硬派の反発であるが、現在、ジョンソン元首相やトラス前首相は表立って反発するような態度には出ていない。

対 EU 強硬派が党内で政局を仕掛ける可能性は低いと考えられる。EU 離脱以前より、有権者は保守党による政権運営に対する不信感を強めている（図表4）。対 EU 強硬派が支援したトラス

図表3. 低迷するスナク首相の支持率



図表4. 有権者が抱える保守党に対する構造的な不信



前政権がわずか45日での退陣を余儀なくされたこともあり、対 EU 強硬派が「ウィンザー枠組み」をめぐって党内で政局を仕掛ければ、有権者の保守党離れを加速させかねない。

任期満了に伴う英国の次期の総選挙は2025年1月24日までに行われる。EU 離脱による社会経済の混乱やコロナ禍でのジョンソン元首相の醜聞、その後の歴史的な物価高など、保守党には強い逆風が吹いており、2010年以来となる下野も視野に入る。党内の混乱は有権者の支持離れを加速させかねないため、対 EU 強硬派としても静観せざる得ない状況と考えられる。

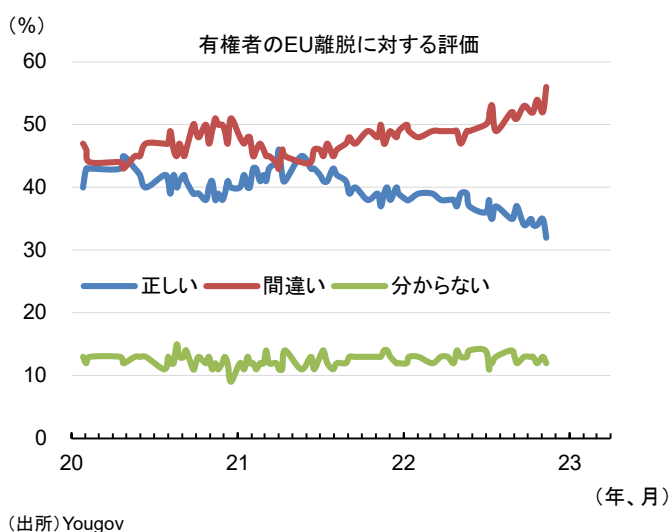
(3) 期待される英国と EU の関係改善

今回の「ウィンザー枠組み」を受けて、英国と EU の双方で経済的なプラス効果が直ぐに出るわけではない。それよりも期待されることは、この「ウィンザー枠組み」を足掛かりに、英国と EU の外交関係がより改善することにある。英国の有権者の中では EU 離脱が間違いだったという評価が着実に広がっており、関係改善に向けた機運が高まっている（図表5）。

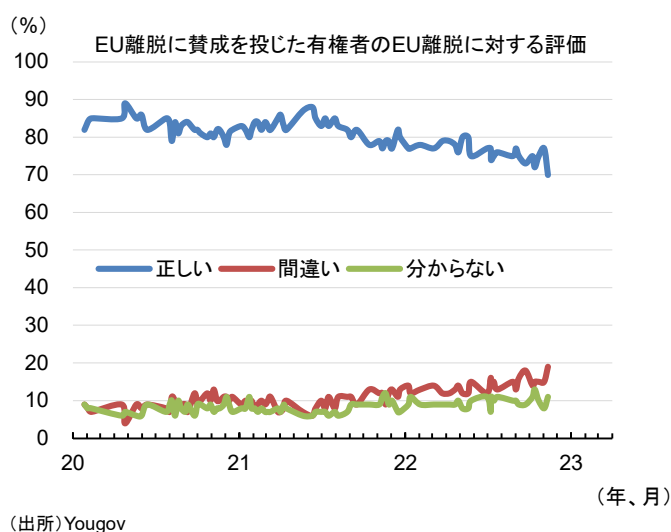
EU 離脱に賛成を投じた有権者の EU 離脱に対する評価も、それを「間違い」だったとする声徐徐に強まっている（図表6）。世論調査会社 Yougov は有権者がそう答えた理由として、離脱後に英国で様々な環境が悪化したこと、インフレ悪化を含めて経済が悪化したこと、を指摘している。目に見えた成果がないことも、有権者の「後悔」につながっているのだろう。

早期の EU 再加盟に関しては、最大野党である労働党も否定的な見解を持っている。また実務的に考えても、数年の歳月を要すること必至であるため、非現実的である。とはいえ、既往のロシア＝ウクライナ情勢が示すように、英国と EU はヨーロッパにある主要国（あるいはスーパーパワー）として、密接な協力が期待される関係にある。

図表5. EU 離脱に後悔する有権者



図表6. EU 離脱に投票した有権者に広がる「後悔」



トラス前首相が続投していれば、このタイミングで「ウィンザー枠組み」で合意に達する展望を描くことはできなかった。結果的に、極短期でトラス前首相が退陣し、スナク現首相が就任したことで、英国とEUの関係改善に向けた動きが進展した。これを機に、両者の関係が一段と改善する展開となることが期待される。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。